指導用ガイド

お金とのつきあい方
全5章

目次

第１章 2
第２章 11
第３章 20
第４章 34
第５章 42

第１章 お金のきほん

― お金の意味や役割を理解することを目指します ―

本章では、お金とは何かについて考え、その価値や役割について理解することを目的とします。物やサービスとの交換に使われるものとしてのお金の基本的な性質に触れながら、身近な生活との関係を捉えます。
指導にあたっては、「お金とは何か」という問いを出発点とし、価値や使い方に目を向けることを重視します。具体的な場面を通して、お金を使うという行為の意味を考えられるようにします。
また、お金の大切さや手に入れ方、使い道についても段階的に整理し、生活とのつながりを理解できるようにします。
本章は、第２章以降のお金の使い方や判断の学習を支える基盤として位置付けています。

本章の構成

第１節 お金って何？
第２節 お金の大切さ

第１章 第１節「お金って何？」

(1)学習目標と単元の概要

本節は「お金とは何か」という基本的な概念を学ぶ導入として、物やサービスと交換するための道具としてお金が存在していることを理解させることをねらいとしています。お金を単に持っているものや使うものとして捉えるのではなく、価値と交換の関係に気づかせることで、今後のお金の使い方や管理について学ぶための土台を形成します。授業では、お金は物やサービスとの交換に使用されるものであること、お金の価値は使い道によって異なること(1.1.1)、そしてお金を使うことは価値に合った支払いをすることであるという考え方(1.1.2)を、生活に身近な例を通して学習していきます。

(2)指導の要点と基本方針

指導にあたっては、お金を抽象的な概念として説明するのではなく、生徒が日常で経験している買い物やサービスの利用などの具体的な場面と結びつけて理解させることが大切です。お金は物やサービスと交換するためのものであるという基本を繰り返し確認しながら、お金の価値が使い道によって変わることや、お金は生活を豊かにするための手段であることに気づけるようにします。自身のお金に関する経験を振り返ったりしながら学習することが重要です。

(3)具体的な指導の展開

お金の価値(1.1.1) スライド4～6

①概要

お金は物やサービスと交換するためのものであり、価値を表す役割を持っていることを学びます。スライドでは、お金の価値が使い道によって変わることに触れながら、生活の中でお金がどのように使われているかを理解していきます。お金があることで必要なものを手に入れたり、サービスを受けたりできることを具体的に捉えることを目指します。



スライド 4　お金は物やサービスと交換するためのものであることの説明

②指導を行う際の留意点

「価値」という言葉はイメージしにくい場合があるため、実際にどのようなものを買うことができるかを具体的に示しながら説明すると理解が進みます。特別支援学校の生徒に対しては、言葉だけで説明するのではなく、写真やイラストなど視覚的な情報を活用しながら進めることで理解を助けることができます。生徒が普段見たり使ったりしている物や買い物の経験を例に取り上げることで、お金と生活との結びつきを実感しやすくなります。また、お金は自由に増えるものではないことや、使うことには意味があるという点を丁寧に確認しながら学習を進めることが大切です。

お金を使うということ (1.1.2) スライド 7

①概要

お金を使うとは価値に合った支払いをすることであるという考え方を学びます。また、お金はただ使うものではなく、物やサービスと交換するためのものであることを確認します。お金を使うことの意味を理解し、今後のお金の使い方を考えるための基礎を身につけることを目指します。



スライド 7　お金は価値に合った支払いをするものであることの説明

②指導を行う際の留意点

生徒が「お金を使う」という行為を具体的にイメージできるよう、買い物や支払いの場面を思い出せるような説明を心がけます。特別支援学校の生徒に対しては、お金を渡すことと物やサービスを受け取ることの関係がわかるよう、実際のやり取りを示したり、動作を交えながら説明したりすると理解しやすくなります。また、「価値にあった支払い」という言葉が難しく感じられる場合には、身近な例を挙げながら丁寧に確認し、生徒が安心して学習に参加できるように進めることが大切です。

(4)学習の成果と評価

本節の学習を通して、生徒がお金は物やサービスと交換するためのものであることを理解し、身近な生活の中でお金がどのように使われているかを考えられるようになることを目指します。また、発問やクイズに対して自分の考えを示そうとする姿勢や、学習内容を生活の経験と結びつけて捉えようとする様子も評価の観点となります。正答だけではなく、学習に主体的に参加しようとする態度や理解しようとする過程を大切に評価します。

(5)参考 URL

① お金にはどんな役わりがあるの？

出典元：日本銀行

https://www.boj.or.jp/z/kids/book.html

お金が持つ「交換の手段（交換する）」「価値の尺度（はかる）」「価値の保存（ためる）」という３つの役割を、イラストを用いて分かりやすく解説している冊子をダウンロードできます。お金とは何かという基本を理解するのに最適です。

②【子どもに説明できますか？】お金ってなんのためにあるの？

出典元：MY SCHOOL

https://my-school.via-corp.jp/magazine/money/5855/

お金とは何か、なぜお金が存在するのかについて、主に保護者に向けてわかりやすい言葉で解説している記事です。お金の役割や価値、なぜ物々交換ではないのか等について基本から説明されています。

③ お金の役割って何だろう？

出典元：金融広報中央委員会

https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/okanenone/shogaku56/yakuwari501/kodomo.html

お金の役割について、「ものやサービスと交換できること」「ためておいて後で使えること」「ものの価値をはかること」という三つの視点から、子どもにもわかりやすく身近な例を用いて簡潔に解説しています。

④ はまぎん おかねの教室

出典元：横浜銀行

https://www.boy.co.jp/boy/brand/okane/elementary/index.html

小学生向けの金融教育教材や動画、ワークシートなどが掲載されており、お金の役割や使い方について学べる内容がまとめられています。お金との正しいつきあい方や生活の中でのお金の考え方を具体的に理解するのに役立ちます。

⑤ 子どもに伝えたいお金のこと

出典元：Ｚ会

https://www.zkai.co.jp/z-navi/post-3378/

子どもがお金とどのように関わりながら金銭感覚を育てていくかについて、家庭での具体的な関わり方を紹介している記事です。教育の視点から、お金の使い方や計画性を育てるための考え方を理解するのに役立ちます。

第１章 第２節「お金の大切さ」

(1)学習目標と単元の概要

本節は、お金がどのようにして手に入り、どのように使われるのかを理解することを通して、お金の大切さについて考えることをねらいとしています。お金は自然に増えるものではなく、働いたり、もらったり、使い方を工夫したりすることで手に入れたり増えたりするものであることを学びます。また、お金の使いみちにはさまざまな目的があることを知り、生活の中でお金をどのように使うかを考える基礎を身につけます。

(2)指導の要点と基本方針

指導にあたっては、お金は努力や活動の結果として得られるものであることを丁寧に確認することが大切です。お金はただ存在しているものではなく、働くことや人との関わりの中で得られるものであるという理解につなげます。また、お金の使いみちには「生活に必要なもの」「便利や安全のため」「将来のために貯めること」「まわりの人のために使うこと」などがあることを示し、使い方には目的があることに気づけるようにします。生徒が自分のお金に関する経験と結びつけながら考えられるようにすることが重要です。

(3)具体的な指導の展開

お金はどうやって手に入れるの（1,2,1） スライド 11～15

①概要

この学習では、お金の受け取り方について学びます。スライドでは、「はたらいて手に入れる」「もらう」「お金を使ってふやす」という三つの方法が示されており、お金はさまざまな形で得られることを理解します。お金は自然に増えるものではなく、行動や努力によって得られるものであることを確認し、お金の価値を実感できるようにします。



スライド 15　お金を手に入れるさまざまな方法の図示

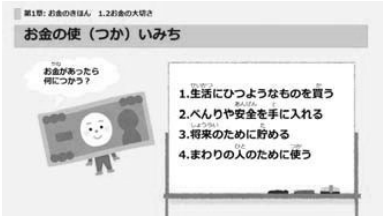
②指導を行う際の留意点

お金を「もともとあるもの」として捉えている生徒もいるため、どのようにして手に入れるのかを具体的に示すことが大切です。特別支援学校の生徒に対しては、働く場面やお手伝いをする場面など、身近な例を挙げながら説明すると理解しやすくなります。また、「お金を使ってふやす」という表現が難しく感じられる場合には、具体的なイメージに置き換えて丁寧に確認します。お金は勝手に増えるものではないことを、否定的になりすぎないように伝えることが重要です。

お金の使いみち（1,2,2） スライド 16～20

①概要

この学習では、お金の使いみちについて学びます。スライドでは、「生活にひつようなものを買う」「べんりや安全を手に入れる」「将来のために貯める」「まわりの人のために使う」という４つの使い方が示されています。お金にはさまざまな使い道があり、目的をもって使うことが大切であることを理解します。お金をまったく使わずにためこむことが正しいわけではないことにも触れ、使い方のバランスについて考えるきっかけとします。



スライド 16　４種のお金の使い道を示し、お金を何に使うか考えさせる

②指導を行う際の留意点

生徒が自分の経験と結びつけながら考えられるよう、「お金があったら何に使うか」と問いかけることが効果的です。特別支援学校の生徒に対しては、「絶対に必要なもの」と「なくても困らないもの」の違いを具体的に示しながら説明すると理解しやすくなります。また、「まわりの人のために使う」という視点については、プレゼントを渡す場面や助け合いの場面を想像できるように丁寧に扱います。

(4)学習の成果と評価

本節の学習を通して、生徒がお金は勝手に増えるものではなく、働いたり、もらったりすることで手に入るものであることを理解し、お金の使いみちにはさまざまな目的があることを説明できるようになることを目指します。また、自分の生活と結びつけてお金の使い方を考えようとする姿勢や、発問に対して自分の考えを示そうとする態度も評価の観点となります。正答だけではなく、学習内容を生活経験と関連づけて考えようとする様子を大切に評価します。

(5)参考 URL

① お金はどうやったら手に入る？
出典元：Yahoo!きっず
https://kids.yahoo.co.jp/event/mag/money/howto/
子ども向けに、お金が手に入る方法として「プレゼント」「お手伝い」「投資する」「銀行に預ける」「ものを売る」「クラウドファンディング」を易しく説明しています。お金の増やし方について、身近な例を交えて紹介しています。

② お年玉で学ぼう！子どもに身に付けてほしいお金の使い方と貯め方
出典元：長野ろうきん
https://www.nagano-rokin.co.jp/money/detail/64
お年玉を題材に、子どもが「上手にお金を使うこと」と「お金を貯めること」を身につけるための考え方を、具体例を交えて解説している記事です。必要なものと欲しいものを見分けて買い物を考えることや、残りを貯めて管理する方法などを扱っています。

③ お金を貯める？かせぐ？みんなの教科書【小学生～中学生向き】
出典元：税金・社会保障教育
https://www.mmea.biz/study_lesson/junior/work-l/
小中学生を対象に、お金を貯めたり稼いだりすることについて説明しています。お金を増やす方法として「貯める」「かせぐ」「お金を使ってお金をかせぐ」「投資して増やす」の 4 つをあげ、それぞれの方法や特徴、リスクについてわかりやすく提示しています。

④ 家庭で学ぶ、価値あるお金の使い方―親子で学ぶお金の話(3)
出典元：野村證券
https://www.nomura.co.jp/fin-wing/column/valuable-money-lessons-at-home/
家庭で子どもにお金の価値や大切さをどのように伝えるかについて、具体的な考え方や関わり方を紹介しているコラムです。日常生活の中で子どもの金銭感覚を育てるための視点や実践例を学べます。

⑤ はじめての金融教育「お金をもらったらどうする？」(小学生 低学年向け)
出典元：放課後 NPO アフタースクール
https://www.youtube.com/watch?v=ivYGb418al0
ソニー銀行の支援のもと作成された親子で「お金の使い道」について考える動画です。小学校低学年向けに、欲しいものを買うだけではなく、貯金や寄付といったお金の使い道をわかりやすく解説しています。

第 2 章 お金の使いかた

― お金を計画的に使い、ためることを理解することを目指します ―

本章では、お金の使い方とため方について理解し、計画的に管理する力を育てることを目的とします。使うこととためることの両方の視点から、お金との関わり方を考えます。
指導にあたっては、「どのように使うか」だけでなく、「どのように計画するか」という視点を持たせることを重視します。具体的な金額や場面を通して、見通しをもった使い方を考えられるようにします。
また、少しずつためることや節約すること、目標を持つことの大切さについても扱い、日常生活に結び付けて理解できるようにします。
本章は、第 3 章以降の買い物や判断の学習につながる基礎として位置付けています。

本章の構成

第 1 節 お金を使う
第 2 節 お金を貯める

第 2 章 第 1 節「お金を使う」

(1)学習目標と単元の概要

本節は、お金を使うときには計画を立てることが大切であることを理解し、計画に沿って使うための基礎を身につけることをねらいとしています。お金は思いつきで使うのではなく、何にどれくらい使うかを考えたうえで使うことで、必要なものにきちんと使えるようになります。授業では、計画を立てること、守ることの大切さについて、具体的な場面を通して学習していきます。

(2)指導の要点と基本方針

指導にあたっては、「お金を使う前に考えること」と「決めたことを守ること」を分けて理解できるようにすることが重要です。まず、使う目的や金額をあらかじめ決めておくことが、無理のない使い方につながることを丁寧に確認します。次に、計画を守ることは我慢することだけではなく、必要なものにきちんとお金を使うための工夫であることに気づけるようにします。特別支援学校の生徒に対しては、見通しを持って行動しやすいよう、計画を「見える形」にして確認しながら進めることが大切です。

(3)具体的な指導の展開

計画をたてる（2.1.1） スライド 25・26

①概要

お金を使う前に計画を立てることの大切さを学びます。まず手元にいくらのお金があり、何にお金を使うのかや使う金額を考えることを通して、計画的に使う意味を理解していきます。また、入ってきたお金と使ったお金を定期的に書き留めることにも触れ、家計簿やアプリを活用して振り返る方法を知ります。計画を立てることで、必要なものに使えるようになることや、使いすぎを防げることに気づくことを目指します。



スライド 25　お金を使う計画の立て方の説明

②指導を行う際の留意点

計画という言葉が難しく感じられる場合には、「先に決めておくこと」や「使う前に考えること」と言い換えながら進めると理解しやすくなります。特別支援学校の生徒に対しては、何に使うかを一つずつ確認し、金額と結びつけて具体的に考えられるようにすると効果的です。また、入ってきたお金と使ったお金を記録することが計画につながることにも触れながら、計画は自分に合ったお金の使い方を考えることであることを丁寧に伝えます。

計画をまもる（2.1.2）スライド 27

①概要

立てた計画を守ってお金を使うことの大切さを学びます。スライドでは、計画を守ることで必要なものにお金を使えることや、後で困らない使い方につながることを確認します。計画を立てるだけで終わらず、決めたことを守って行動することが、お金との上手なつきあい方につながることを理解することを目指します。



スライド 27 お金を使う計画をまもることの大切さの説明

②指導を行う際の留意点

指導にあたっては、お金を使うときにはあらかじめ計画を立て、その計画を守ることの大切さを丁寧に確認します。たとえば、「新しい自転車を買うために 15,000 円までと決めたら、それを超えるものは買わない」というように、身近な例で具体的な金額を示しながら説明すると理解しやすくなります。計画を守ることで無駄づかいを防ぎ、お金を大切に使うことにつながることを伝えます。また、自分がいくら持っているのかを把握しながら使うことが重要であることにも触れ、見通しをもって使う姿勢を育てます。

(4)学習の成果と評価

生徒がお金を使うときには計画を立て、その計画を守ることの大切さを理解できるようになることを目指します。あらかじめ金額を決めておくことや、自分が持っているお金の範囲内で使うことについて説明できるかどうかが評価の観点となります。また、発問に対して自分なりに理由を考えようとする姿勢や、計画をたてる・まもるにはどうすればよいかを考えようとする様子も大切に評価します。正解だけでなく、計画的に使おうとする意識や、見通しをもって判断しようとする過程を重視します。

(5)参考 URL

① なぜ、おこづかい帳をつけるんだろう？

出典元：金融広報中央委員会

https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/okanenone/shogaku34/tukaikata303/otona.html

おこづかい帳をつける目的や意義について解説している資料です。記録を通して収支を把握し、失敗を振り返りながら計画的にお金を管理する力を育てる視点が示されています。

② 発達に特性のある子どもの金銭管理。～お小遣いから学ぼう～

出典元：ヴィストカレッジ

https://visst.co.jp/college/library/4164/

発達に特性のある子どもを対象に、衝動買いを防ぐ工夫や、お小遣いのルールづくり、視覚化による金銭管理の方法について具体的に紹介している記事です。買いたい物リストの活用や、カレンダーや家計簿アプリによる残額の把握など、計画的にお金を使う力を育てる指導を考える際の参考になります。

③ こども向けおこづかい帳アプリ「ハロまね～親子で学ぶ、こどものお金管理～」

出典元：三井住友カード

https://www.smbc-card.com/mem/cardinfo/cardinfo7010002.jsp

子ども向けのおこづかい帳アプリを紹介しています。収入や支出を記録する機能や目標設定機能などを通して、計画的なお金の使い方や収支管理の基本を学ぶことができる内容となっています。

④【おこづかい管理で数字に強くなる!?】子どもでもできるお金の管理法と 3 つのオススメアプリ

出典元：学研

https://kosodatemap.gakken.jp/life/money/65761/

子どもがおこづかいを自分で管理することのメリットや、具体的な管理方法について紹介している記事です。おこづかい帳やアプリの活用、目標設定や親子での振り返りの大切さなどを通して、計画的にお金を使う力を育てる教育の参考になります。

第 2 章 第 2 節「お金を貯める」

(1)学習目標と単元の概要

本節は、お金を貯めることの大切さやその具体的な方法を理解することをねらいとしています。計画を立てて使うことは大切ですが、あるだけのお金をすべて使ってしまうと、将来の計画を立てることができません。そこで、お金を手に入れたときには、使うだけでなく貯めることも必要であることを学びます。少しずつ続けて貯めることや、節約によって出ていくお金を減らすこと、目標を持って貯めることの大切さについて理解します。

(2)指導の要点と基本方針

指導にあたっては、計画を立てて使うことに加えて、すべて使い切らずに残しておくことの大切さを確認します。あるだけのお金を使ってしまうと次の計画が立てられないことを具体的に示し、貯める必要性を理解させます。また、少しずつ続けて貯めることや、節約によって出ていくお金を減らすこと、目標を持つことが貯金につながることを伝えます。身近な例を用いながら、前向きに貯める意識を育てます。

(3)具体的な指導の展開

少しずつ貯める（2.2.1）スライド 31

①概要

この学習では、お金を貯めるコツは、少しずつ続けて貯めることであることを学びます。毎週決まった金額を貯めるなど、無理のない方法を続けることで、大きな貯金につながることを理解します。小さな金額でも長く続けることで、少し高いものでも購入できるようなまとまったお金になることに気づきます。



スライド 31　お金を少しずつ貯めることの説明

②指導を行う際の留意点

「一度にたくさん貯める」ことを求めるのではなく、「少しずつ続ける」ことの大切さを丁寧に伝えます。特別支援学校の生徒に対しては、具体的な金額を示したり、積み重なっていく様子を視覚的に示したりすると理解しやすくなります。

節約をする（2.2.2）スライド 32

①概要

お金を貯める方法として節約があることを学びます。節約とは、お金を無駄にしないようにすることであり、出ていくお金を減らすことで手元に残るお金を増やせることを理解します。日常生活の中でできる工夫が、貯金につながることに気づきます。



スライド 32 節約についての説明

②指導を行う際の留意点

お菓子を買いすぎないことや、電気や水道を無駄に使わないことなど、具体的な例を示しながら説明します。節約を「我慢」として強調するのではなく、「上手な使い方」として前向きに捉えられるようにします。

目標をもつ（2.2.3）スライド 33

①概要

お金を貯めるためには目標をもつことが大切であることを学びます。いくら貯めたら何を買うかといった目標を決めることで、貯める意欲が高まり、達成したときの喜びにつながることを理解します。目標があることで、貯める行動を続けやすくなることに気づきます。



スライド 33 目標をもちお金を貯めることの説明

②指導を行う際の留意点

目標は具体的な金額や品物にすることで、見通しを持ちやすくなります。目標金額やそのお金を何に使いたいかを書き出すなどして視覚化すると効果的です。

(4)学習の成果と評価

生徒がお金を貯める方法として「少しずつ続けること」「節約をすること」「目標を持つこと」の大切さを理解できるようになることを目指します。お金をすべて使い切らずに残しておくことの意味や、無駄づかいを減らすことが貯金につながることについて理解できたかどうかが評価の観点となります。また、具体的な目標を考えたり、自分なりに貯める方法を工夫しようとしたりする姿勢も評価します。

(5)参考 URL

① 小学生から始める！「お金を貯める力」の具体的な鍛え方
出典元：株式会社 miraii
https://miraii.jp/financial-7
子どもに身につけてほしい「お金を貯める力」について、貯める力をつける意義や具体的な鍛え方を紹介している記事です。目標設定や先取り貯金、振り返りなど、実践方法がわかりやすくまとめられています。

② あなたの子どもはどのやり方が合う？子どもが楽しく＆わかりやすく貯金・お金のやりくりを学ぶためのツールとは？
出典元：株式会社インタースペース
https://select.mamastar.jp/308163

子どもの性格や興味に合わせて、お金のやりくりや貯金を楽しく学ぶ方法を紹介している記事です。お小遣い制度や貯金箱、ぬりえ貯金など、視覚的にわかりやすい工夫が具体的に示されています。子どもが納得しながらお金を使い、貯める力を育てる参考になります。

③ お金を貯める～将来の幸せにつながる貯金の習慣づくり～―親子で学ぶお金の話(7)
出典元：野村證券
https://www.nomura.co.jp/fin-wing/column/why-saving-your-money/
お金を貯める理由や、目標設定・支出の把握・先取り貯金といった具体的なステップをわかりやすく解説しているコラムです。親子で実践できる方法も紹介されており、貯金を習慣化することの大切さや、将来に備える視点を学ぶことができます。

第３章 買いもののしかた

― よい買い物をするための考え方を身につけることを目指します

本章では、買い物の前に考えることや、お金の使い方の判断について理解することを目的とします。必要なものとほしいものの違いや、お金を使う順番について考えます。

指導にあたっては、「買うかどうか」の判断を大切にし、むだなお金の使い方に気づく視点を持たせることを重視します。具体例を通して、よい買い物とは何かを考えられるようにします。また、キャッシュレスの仕組みや使い方、安全に使うための注意点についても扱い、現代の買い物のあり方を理解できるようにします。

本章は、実生活における判断力を育てる章として位置付けています。

本章の構成

第１節 買いものをする前に
第２節 むだなお金を使わないようにするために
第３節 キャッシュレスを使おう
第４節 キャッシュレスをつかうとき気をつけること

第３章 第１節「買いものをする前に」

(1)学習目標と単元の概要

本節は、買いものをする前に立ち止まって考えることの大切さを理解することをねらいとしています。欲しいという気持ちだけでお金を使うのではなく、本当に必要なものかどうかを考える視点を学びます。また、お金には限りがあることを踏まえ、使う順番を意識することで、よりよい使い方ができることを理解します。自分の気持ちと向き合いながら、何を優先するべきかを考える力を育てることを目指します。

(2)指導の要点と基本方針

指導にあたっては、「必要なもの」と「ほしいもの」は同じではないことを丁寧に確認します。すぐに買うのではなく、一度立ち止まって考える習慣を身につけさせることが大切です。その際、「なくて困るかどうか」「今すぐ必要かどうか」といった問いを用いることで、生徒が判断しやすくなります。また、お金には限りがあるため、使う順番を考えることが重要であることを、買いものの場面など具体的な例を通して理解させます。生徒が自分の経験と結びつけながら判断できるように、身近な例を用いて進めます。

(3)具体的な指導の展開

必要なものとほしいもののちがい（3.1.1） スライド 38

①概要

この学習では、「必要なもの」と「ほしいもの」の違いについて考えます。生活に欠かせないものと、なくても困らないけれどもあると嬉しいものは異なることを理解し、自分が買おうとしているものがどちらにあたるのかを考える視点を身につけます。また、欲しいという気持ちだけで判断するのではなく、一度立ち止まって考える習慣を育てることを目指します。



スライド 38　必要なものとほしいもののちがいの説明

②指導を行う際の留意点

「どちらが正しいか」を決めるのではなく、「なぜそれが必要だと思うのか」「どうしてほしいのか」を考えさせることが大切です。特別支援学校の生徒に対しては、具体的な品物を示しながら分類する活動を行うと理解が深まります。

お金を使う順番（3.1.2） スライド 39

①概要

お金を使う順番について考えます。必要なものを優先することや、限られたお金の中で順番を考えることが大切であることを理解します。また、すべてを同時に買うことはできない場合があることを知り、何を先に使うべきかを自分で判断する視点を身につけます。順番を意識することで、より計画的なお金の使い方ができることに気づきます。



スライド 39　お金を使う順番の考え方についての説明

②指導を行う際の留意点

必要なものを優先してお金を使うことを、具体的な例を通して説明します。まずは生活や学習に欠かせないものを購入し、その後に余ったお金でほしいものを買うという順番を示します。例えば、お昼に食べるおにぎりや学校で使う文房具などを先に買い、その後に友達とカフェに行くことやゲームを買うことを考える、といった身近な場面を用いると理解が深まります。優先順位を意識することで、より計画的なお金の使い方ができることに気づかせます。

(4)学習の成果と評価

本節の学習を通して、生徒が買いものをする前に立ち止まって考えられるようになることを目指します。また、「必要」と「ほしい」を区別しようとする姿勢や、お金を使う順番を意識して判断しようとする態度も評価します。さらに、自分なりの理由を持って選択しようとする様子や、

限られたお金の中で優先順位を考えようとする姿勢も大切にします。正答だけでなく、理由を考えようとする過程や、学習内容を日常生活に生かそうとする意識を評価します。

(5)参考 URL

① お金をためて必要なものを買う
出典元：金融広報中央委員会
https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/okanenone/shogaku56/tukaikata502/otona.html
必要なものと欲しいものの違いについて、話し合いながら考える大切さを紹介しています。おこづかい帳を活用した振り返りや、予備費を備えておく考え方なども示されています。

② 小学生からの【お金教育】でまわりに差がつく！お金について学ぶメリットと方法【後編】
出典元：ヒューマンアカデミー
https://kids.athuman.com/cecoe/articles/000156/
「ほしいもの」と「必要なもの」を区別する視点や、お金の使い道を定期的に振り返ることの大切さを紹介している記事です。お金の使い道について、大人が子どもの判断を支援する方法が説明されています。

③ おこづかいを渡す前に、子どもと話し合って決めておきたいルールとは
出典元：朝日新聞
https://www.asahi.com/edua/article/15303968
おこづかいを通して「必要なもの」と「ほしいもの」を区別する視点や、優先順位を考える経験の大切さを解説している記事です。おこづかいの範囲やルールを親子で話し合うことの重要性がわかります。

第３章 第２節「むだなお金を使わないようにするために」

(1)学習目標と単元の概要

本節は、お金を使う前に立ち止まって考える姿勢を身につけることをねらいとしています。必要なものであっても「今すぐ必要か」を考える視点や、欲しいものであっても「本当に自分にとって大切か」「値段は見合っているか」と考える力を育てます。お金はただ使えば減るものではなく、使い方によってその価値が変わることを理解し、後悔の少ない選択や良い買い物ができるようになることを目指します。

(2)指導の要点と基本方針

指導にあたっては、「むだな買いもの」とは何かを具体例を通して考えさせます。セールだからと買ったものの着なかった服や、必要以上に注文してしまった食べ物など、身近な場面を想定しながら考えることが重要です。その際、「今本当に必要か」「なくて困るか」「すでに同じものを持っていないか」といった問いを用いることで、生徒が判断しやすくなります。また、いくらお金があっても、考えずに使えば減っていくことを丁寧に確認し、お金の使い方が将来につながることを伝えます。

(3)具体的な指導の展開

むだな買いものの例（3.2.1） スライド 43～44

①概要

むだな買いものとはどのようなものかを考えます。本当は必要のないものや、今すぐ必要ではないものを衝動的に買ってしまうことが、むだなお金の使い方につながることを理解します。セールだからと普段着ない服を買ってしまうことや、似たものを続けて購入してしまう例を通して、「買ったあとに後悔しないか」という視点の大切さに気づかせます。



スライド 43　むだな買い物の例の説明

②指導を行う際の留意点

むだな買いものを責めるのではなく、「どうして買ってしまったのか」「そのときどんな気持ちだったか」を振り返らせることを大切にします。特別支援学校の生徒に対しては、具体的な場面を一つずつ整理しながら、「お腹が空いていないのにケーキを頼んだらどうなるか」など、状況を明確にして考えさせると理解が深まります。感情だけで判断せず、一度考える時間をつくることが大切であると伝えます。

よい買いものをするコツ（3.2.2） スライド 45

①概要

良い買いものとは何かについて考えます。本当に必要なものかを考えた上で購入することや、値段や品質を比べて選ぶことが、良いお金の使い方につながることを理解します。また、セールや割引を上手に利用することも一つの工夫であることを学びます。考えて選ぶことが、お金を大切に使うことにつながることに気づかせます。



スライド 45 良い買いものをするコツの説明

②指導を行う際の留意点

安いから良い」「欲しいから良い」と単純に判断するのではなく、「自分にとって本当に価値があるか」を考えさせることが大切です。いくつかの商品を比べる活動を取り入れるなど、比較する経験を通して判断力を育てます。

(4)学習の成果と評価

本節の学習を通して、生徒が買いものをする前に立ち止まって考えようとする姿勢が見られるかを評価します。また、むだな買いものとは何かを具体的に説明できるか、良い買いものの条件について自分なりに考えられるかも評価の観点とします。正しい答えを言えるかどうかだけでなく、「なぜそれがむだだと思うのか」「どうすればよかったのか」と考えようとする過程を大切にします。

(5)参考 URL

① 消費者教育教材「買い物を考えよう！！」

出典元：千葉市

https://www.city.chiba.jp/shimin/seikatsubunka/shohi/kyouzai-kaimono.html

小学生向けに、お金や買い物について学ぶための教材が公開されています。教材2「お金はどのようにつかえばいいの？」では、ゲームにお金を使いすぎてしまったという身近な事例をもとに、お金の使い方や後悔しない買い物の仕方について考える内容になっています。

② 【後編】子供向け消費者リーフレット「目指そう！かしこい消費者」を作成しました

出典元：台東区

https://kids.athuman.com/cecoe/articles/000156/

小学 6 年生もしくは中学 3 年生対象にした消費者啓発リーフレットが公開されています。小学 6 年生向けのリーフレットでは、上手に買い物をするコツとして、買う前に本当に必要かを考える視点、商品の選び方、購入後のお金の管理の説明がされています。

③ お買い物体験！親子で楽しむ“お金”のたいせつさ講座

出典元：生駒市教育委員会事務局生涯学習課

https://ischoolikoma.com/mirai26report/

親子で予算内の買い物体験を行い、「本当に必要なものか」「予算に合っているか」を考えながら選ぶ力を育てる講座の報告です。700 円という限られた金額の中で昼食を選ぶ活動や、キャッシュレスでの支払い体験を通して、衝動的に買うのではなく、目的や金額を意識して買い物をする大切さを学んでいます。

第 3 章 第 3 節「キャッシュレスを使おう」

(1)学習目標と単元の概要

本節は、キャッシュレスとは何かを理解し、その仕組みや特徴について学ぶことをねらいとしています。キャッシュとは現金のことであり、キャッシュレスとは現金を使わずに支払う方法であることを確認します。クレジットカードやデビットカード、電子マネーなどの種類を知り、便利さとともに、お金を使っていることを意識する大切さを理解できるようになることを目指します。

(2)指導の要点と基本方針

指導にあたっては、まず「キャッシュレス」という言葉の意味を確認し、キャッシュレスの基本的な考え方をわかりやすく説明します。現金を出さなくても支払いができる仕組みであることを、スマートフォンをかざす、カードを差し込む、暗証番号を入力するなどの具体的な場面を通して示します。仕組みや使い方が異なることを紹介しつつ、どの方法でも実際にはお金が減っていることを丁寧に確認します。特別支援学校の生徒に対しては、現金支払いとの違いを比較しながら、「見えなくてもお金は使われている」という点を繰り返し説明することが重要です。

(3)具体的な指導の展開

キャッシュレスとは何か（3.3.1） スライド 49

①概要

キャッシュレスとは、現金を使わずに支払いをする方法であることを学びます。カードやスマートフォンを使って支払いができる仕組みを理解し、スマートフォンをかざす、カードを差し込む、サインをするなど、さまざまな使い方があることにも気づかせます。同時に、現金を手渡さなくても自分のお金を使っていることに変わりはないという点を丁寧に確認します。



スライド 49 キャッシュレスとは何かとその使用法の説明

②指導を行う際の留意点

キャッシュレスの「便利さ」だけに目が向かないよう配慮することが大切です。現金を直接やり取りしないため、お金を使っている実感が薄れやすいことを具体例とともに説明します。「あとで口座から引き落とされる」「チャージした残高が減っていく」といった仕組みを図や身近な場面を使って示し、お金の流れを可視化します。

キャッシュレスの種類（3.3.2） スライド 50

①概要

キャッシュレスにはさまざまな種類があることを学びます。クレジットカードやデビットカード、電子マネーなどの代表的な方法を知り、それぞれ支払いの仕組みやタイミングが異なることを理解します。現金を使わなくても支払いができる便利さがある一方で、方法によってお金の引き落とされ方が違うことにも気づかせます。



スライド 50 さまざまなキャッシュレスの種類についての説明

②指導を行う際の留意点

クレジットカードは後払い、デビットカードは即時引き落とし、電子マネーは事前にチャージして使うなど、違いを簡潔にわかりやすく説明します。PayPay や交通系 IC カードなど、身近な例を挙げながら具体的な使い方を示すと理解が深まります。支払い方法は違っても「どれも自分のお金を使っている」という点を繰り返し確認し、仕組みを理解したうえで選択できるようにします。また、生徒にキャッシュレスを使った経験があるかを問いかけたり、実際に支払い時の音を聞かせたりすることで、より具体的にイメージさせることができます。体験と結びつけながら学ぶことで、理解が深まります。

(4)学習の成果と評価

生徒がキャッシュレスの仕組みを理解し、便利さを知る一方で現金を使わなくても自分のお金を使っているという意識を持てるようになることを目指します。あわせて、キャッシュレスでの

支払いの流れにも目を向けようとする姿勢を評価します。また、キャッシュレスを使った経験など、日常生活と学習内容を結びつけて考えようとする様子も評価の観点とします。

(5)参考 URL

① キャッシュレスって知ってるかな？子ども向けガイド
出典元：経済産業省
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/cashless/image_pdf_movie/pamphlet_children.pdf
子ども向けにキャッシュレスについて解説したガイドです。イラストを交えながら、キャッシュレスとは何かという基本から、支払い方法の種類や使い方、利用できる場が広がっている現状まで、わかりやすく紹介しています。

② 子どもでも当たり前！？キャッシュレスで実は身につく金銭感覚
出典元：ソフトバンク
https://www.softbank.jp/mobile/special/sumaho-debut-support-guide/sumaho-taizen/cashless/
キャッシュレス決済を通して、子どもがお金の管理を学ぶ方法を紹介した記事です。利用履歴や残高確認機能を活用することで、計画的な使い方や「使えば減る」という感覚を親子で身につけられることが解説されています。

③ キャッシュレスのしくみを学ぼう！お金の価値を知る絶好の機会【HugKum キッズマネー講座・第2回「キャッシュレス」】
出典元：小学館
https://hugkum.sho.jp/119911
親が子どもにキャッシュレスについてどう伝えればいいかを解説した記事です。現金体験から電子マネーへ段階的に学ぶ方法や、「電子マネー＝お金」であることをどう伝えるか、親の具体的な声かけ例まで紹介されています。

④ こどもにお金の正しい知識を「こども向けキャッシュレス教室」
出典元：日本テレビ
https://news.ntv.co.jp/category/economy/24a5b1aceb3b4da0bf699cceed6ae6f6
子ども向けにキャッシュレスを学ぶ講座を紹介したニュース記事です。クイズや紙芝居、現金と電子マネーの買い物体験などを通して、キャッシュレスでの見えにくいお金の流れや価値を楽しく理解できる工夫がされています。

指導用ガイド：お金とのつきあいかた
第 3 章 第 4 節「キャッシュレスをつかうとき気をつけること」

(1)学習目標と単元の概要

本節は、キャッシュレスを安全に使うために気をつけることを理解し、自分の情報やお金を守る意識を身につけることをねらいとしています。キャッシュレスは便利な支払い方法である一方で、名前や住所、パスワードなどの個人情報を登録して利用する仕組みであることを学びます。個人情報が他人に知られると、自分のお金を勝手に使われる危険があることを理解し、安全に使うための基本的な行動を身につけることを目指します。

(2)指導の要点と基本方針

指導にあたっては、まずキャッシュレスの仕組みを確認し、事前登録が必要であること、登録した情報が大切なものであることを丁寧に説明します。そのうえで、「個人情報」という言葉の意味を確認し、それが知られてしまうとどのような危険があるのかを具体的に示します。怖がらせるのではなく、「正しく管理すれば安心して使える」という前向きな姿勢を大切にしながら、自分の情報を守る意識を育てます。特別支援学校の生徒に対しては、「教えない」「見せない」「一人で判断しない」といった具体的な行動として示すことで理解を深めます。

(3)具体的な指導の展開

キャッシュレスの安全な使いかた（3.4.1） スライド 55

①概要

キャッシュレスを安全に使う上で必要なことを学びます。キャッシュレスでは、名前や住所、パスワードなどを登録して利用すること、その情報は個人情報と呼ばれる大切なものであることを理解します。個人情報が知られてしまうと、自分のお金を勝手に使われる危険があることを知り、パスワードの管理や利用履歴の確認など、安全に使うための基本的な方法を学びます。



スライド 55 キャッシュレスを安全に使うためのパスワード設定の説明

②指導を行う際の留意点

パスワードは自分だけが知っている大切な情報であることを強調します。名前や生年月日など、他人に推測されやすいものは避ける必要があることを具体例で示します。また、定期的に利用履歴を確認することで被害を防げることにも触れます。安全に使うためには「確認する」「見直す」という習慣が大切であることを繰り返し伝えます。

ほかの人に使われないようにするには（3.4.2） スライド 56

①概要

キャッシュレスを他人に使われないようにするための行動について考えます。カードやスマートフォンを他人に見せないこと、暗証番号やパスワードを絶対に教えないことの重要性を理解します。また、定期的にパスワードを変更したり、利用できる金額の上限を低く設定しておいたりすることで、万が一不正に使われた場合でも被害を小さく抑えられることを学びます。



スライド 56 キャッシュレスを他人に使われないようにするための行動の説明

②指導を行う際の留意点

「ちょっと見せて」「番号を教えて」と言われた場合の具体的な場面を想定し、どのように断るかを考えさせることが効果的です。また、画面をのぞき見されないようにすることや、公共の場での操作に注意することにも触れます。万が一紛失した場合や不正利用に気づいた場合など、困ったときにはすぐに大人に知らせることを繰り返し確認します。自分のお金は自分で守るという意識を育てることが重要です。

(4)学習の成果と評価

生徒がキャッシュレスの安全な使い方を理解し、個人情報やパスワードを大切に扱おうとする姿勢を持てるようになることを目指します。また、他人に見せない・教えないといった具体的な行動を意識できているかを評価します。さらに、困ったときに大人に相談しようとする態度や、自分のお金を守ろうとする意識も評価の観点とします。知識の理解だけでなく、安全に使おうとする行動の芽生えを大切にします。

(5)参考 URL

① キャッシュレス時代における家庭の金銭教育 キーワードは「親子で学ぶ」
出典元：金融広報中央委員会
https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/cashless/cashless001.html
キャッシュレス化が進む中で、「見えないお金」について子どもにどう教えるかを解説した記事です。現金と同じお金であることを親子で確認し、コミュニケーションをとりながら一緒に学び、日常の体験を通して金銭感覚を育てる大切さを紹介しています。

② 「ピッとやれば大丈夫」勘違いの子どもにお金の価値どう教える？
出典元：読売新聞
https://www.yomiuri.co.jp/otekomachi/20230519-OYT8T50020/
キャッシュレス時代に、子どもが「見えないお金」をどう理解するかを扱った記事です。専門家の助言をもとに、現金体験の重要性や、親子でルールを決めて日常の会話の中でお金の価値を伝える大切さを紹介しています。

③ どう説明するのが正解？子どもに伝える〝キャッシュレス決済〟
出典元：小学館
https://domani.shogakukan.co.jp/486816
キャッシュレスを「見えないお金」と表現し、現金と同じように使えば減るものであることを子どもにどう伝えるかを解説しています。働く→銀行に預ける→支払う→引き落とされる、というお金の流れや、前払い・即時払い・後払いの違いもわかりやすく紹介しています。

④ 【おうちで金融教育 3】キャッシュレス時代の金融教育の注意点は？
出典元：ソニー銀行
https://blog.sonybank.jp/2024/08/sonybank0821.html
キャッシュレス化が進む中で、子どもに「見えないお金」をどう伝えていくかを解説した記事です。キャッシュレスの種類がまとめられています。また、現金での体験を経ることや、親子での振り返りなど、家庭でできる具体的な教育のポイントを紹介しています。

⑤ TIS、「親子のキャッシュレス調査」を実施！子どもが使って安全な決済手段は「キャッシュレス派」が 57.9%と「現金派」を上回る～“キャッシュレスお小遣い”賛成派が過半数を超え、子どもの金銭感覚への影響に期待と不安が入り混じる結果に～
出典元：TIS 株式会社

https://www.tis.co.jp/news/2025/tis_news/20250520_1.html
親子を対象に行ったキャッシュレスに関する意識調査の結果をまとめた記事です。子どもが使う決済手段として「キャッシュレス派」が現金派を上回ったことや、キャッシュレスお小遣いに対する賛否、金銭感覚への影響に対する期待と不安の両面が示されています。

第 4 章 インターネットショッピング

ー インターネットを使った買い物の特徴と注意点を理解することを目指します ー

本章では、インターネットショッピングの便利さや楽しさを理解するとともに、安全に利用するための基本的な考え方を学びます。
指導にあたっては、「便利であること」と「注意が必要であること」の両面を意識させることを重視します。具体的な利用場面を通して、どのように使えばよいかを考えられるようにします。
また、フィッシング詐欺などのトラブルについても触れ、被害を防ぐための行動を理解できるようにします。

本章は、デジタル社会における安全な消費行動の基礎を育てる章として位置付けています。

本章の構成

第 1 節 インターネットショッピングの楽しさ
第 2 節 インターネットでの詐欺に気をつけよう

指導用ガイド：お金とのつきあいかた
第 4 章 第 1 節「インターネットショッピングの楽しさ」

(1)学習目標と単元の概要
本節は、インターネットショッピングの便利さや楽しさを理解するとともに、安全に利用するための基本的なポイントを学ぶことをねらいとしています。365 日 24 時間、いつでも商品を探して注文でき、自宅まで届けてもらえるという特徴を知ります。その一方で、実物を見られないことや、お店の人に直接相談できないことなど、インターネット特有の注意点にも目を向けます。便利さの裏にあるリスクを理解し、安全に買いものを楽しむ姿勢を育てることを目指します。

(2)指導の要点と基本方針
指導にあたっては、まずインターネットショッピングの魅力を確認します。「いつでも買える」「家まで届く」「たくさんの商品を比べられる」といった利点を共有し、生徒の経験と結びつけます。そのうえで、気をつけることもあると教えます。安全なサイトを選ぶこと、個人情報を守ること、商品をよく確認することなどを、具体的な場面を想定しながら説明します。実際にネットショップのホームページの画面を提示し、どこを見ればよいのかを確認する活動を取り入れても効果的です。画面のイメージや具体例を用いながら、一つずつ丁寧に確認することが重要です。

(3)具体的な指導の展開
インターネットで買いものをするには（4.1.1） スライド 61～66
①概要
インターネットショッピングを安全に楽しむためのポイントを学びます。実物を見られないことや、お店の人に直接相談できないことを踏まえて、注意すべき点を確認します。安全なサイトを選ぶこと、個人情報を守ること、商品の写真や説明をよく読むこと、怪しいメールに注意すること、返品できるかを確認することなど、安心して利用するための基本を身につけます。



スライド 62 インターネットショッピングで安全なサイトを選ぶ大切さの説明

②指導を行う際の留意点
指導にあたっては、まずインターネットショッピングの良さを肯定的に共有し、生徒が興味を持って学習に入れるようにします。そのうえで、「便利だからこそ、自分でしっかり確かめることが大切である」という視点へとつなげます。安全なサイトの見分け方については、実際のネットショップのホームページ画面を提示し、会社名や問い合わせ先の有無、価格が極端に安すぎないかなどを見る観点を具体的に示します。また、個人情報やクレジットカード情報は慎重に扱う必要があることを強調します。また、商品を購入する前には、写真だけで判断せず、説明文や素材、サイズ、色、価格まで確認することの重要性を丁寧に伝えます。レビューや口コミも参考になることを紹介します。さらに、買い物後に届くメールの中には、別の商品をすすめるものや、不審なリンクが含まれている場合があることにも触れます。知らないリンクはクリックしないこと、個人情報やパスワードを求められても安易に入力しないことを具体例とともに説明します。加えて、返品や交換ができるかどうかを事前に確認することの大切さも指導します。
特別支援学校の生徒に対しては、画面のどこを見ればよいかを一つずつ具体的に示しながら、確認する順番を整理して提示すると理解が深まります。

(4)学習の成果と評価
生徒がインターネットショッピングの便利さとともに、注意点を説明できるようになることを目指します。安全なサイトを選ぶ、個人情報を守る、商品をよく確認するなどのポイントを理解しようとする姿勢を評価します。また、「便利だからこそ気をつける」という視点を持ち、実店舗での買いものとは異なるネットでの買いものの特徴について考え、良い買いものができるようにしようとする態度も評価の観点とします。

(5)参考 URL
① 「お金を使っている感覚がない？」キャッシュレス＆ネット通販の危険から子どもを守る方法
出典元：講談社
https://withonline.jp/with-class/education/topics-education/wMkuD
キャッシュレスやネット通販の広がりにより、「お金を使っている感覚」が薄れやすい現状とその対策を解説した記事です。利用履歴の確認や現金体験の大切さに触れつつ、ネット通販で起こりやすいトラブル事例と注意点、対処法を紹介しています。

② 【ネット通販】トラブル防止！子どもに絶対教えたい「買い物ルール」
出典元：ぴあ株式会社
https://ure.pia.co.jp/articles/-/1078496
ネット通販での失敗事例をもとに、親子で確認したいネット通販での買い物ルールを紹介する記事です。返品条件や支払い方法の確認、クレジットカード情報の管理など、具体的な注意点を整理。家庭内でのルールづくりや、困ったときに相談できる環境づくりの大切さも伝えています。

③ ネットショッピングは便利でたのしいけれど…

出典元：総務省

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/trouble/case/case09.html

ネットショッピングをしたら思っていたものとは違う品質の低い商品が届いた事例を漫画で紹介しています。その上で、ネットショッピングで気を付けるべきポイントを端的にわかりやすくまとめています。

第４章 第２節「インターネットでの詐欺に気をつけよう」

(1)学習目標と単元の概要

本節では、インターネット上に潜む詐欺の危険性を理解し、特に「フィッシング詐欺」の仕組みとその対策について学ぶことをねらいとしています。インターネットでの買い物は便利で楽しい一方で、個人情報をだまし取られたり、口座からお金を引き出されたりする危険もあることを知ります。本物そっくりの偽サイトや偽メールを使って情報を入力させる手口があることを理解し、自分の大切な情報を守る行動がとれるようになることを目指します。

(2)指導の要点と基本方針

指導にあたっては、フィッシング詐欺は本物そっくりに作られるため見た目だけでは判断しにくいことを伝えつつ、フィッシング詐欺の画面例やメール例を使って学習を進めます。「怪しいリンクは押さない」「個人情報を入れる前に正しいリンクか確認する」「困ったら相談する」という行動を中心に、具体的な場面を想定しながら繰り返し確認します。迷ったときは一人で判断せず、必ず保護者や先生に相談することを大切な行動として位置づけます。

(3)具体的な指導の展開

フィッシング詐欺って何？（4.2.1）スライド 70～72

①概要

フィッシング詐欺とは、本物に似せた偽サイトや偽メールを使って個人情報をだまし取る詐欺であることを理解させます。名前やパスワード、カード番号などを入力させる手口があることを示し、盗まれた情報が不正利用につながる危険があることを伝えます。見た目だけで信用しない視点を育てることをねらいとします。



スライド 71 偽サイトを用いたフィッシング詐欺の手口の説明

②指導を行う際の留意点

フィッシング詐欺の説明では、「だまし取る仕組み」を具体的にイメージできるようにすることが重要です。本物そっくりのサイトやメールを使って情報を入力させるという流れを、順を追って丁寧に示します。「なぜだまされてしまうのか」「どうして本物と間違えてしまうのか」という視点にも触れ、見た目だけでは判断が難しい場合があることを理解させます。生徒に対しては、偽のサイトやメールの例を示し、「本物に見えても偽物の場合がある」「不安をあおられてつい怪しいリンクをクリックしてしまう」という認識を持たせることを重視します。

フィッシング詐欺にあわないために（4.2.2） スライド 73・74

①概要

フィッシング詐欺にあわないために、インターネットを使うときの基本的な行動について考えます。あやしいメールやメッセージのリンクをすぐにクリックしないこと、個人情報やパスワードを簡単に入力しないことの大切さを理解します。また、少しでも不安を感じたときには一人で判断せず、保護者や先生に相談することが自分を守る行動であることに気づかせます。自分の情報は大切なものであり、簡単に渡してはいけないという意識を育てることを目指します。



スライド 74 フィッシング詐欺にあわないために情報を大切に扱うことの説明

②指導を行う際の留意点

指導にあたっては、「あやしいと感じたら立ち止まる」という習慣を身につけさせることを重視します。「急いでください」「今すぐ確認」など不安をあおる表現が使われることが多い点に触れ、気持ちをあせらせる仕組みがあることを説明します。また、パスワードや暗証番号は家族や先生にも基本的には教えない大切な情報であることを確認します。特別支援学校の生徒に対しては、具体的な場面を想定しながら、「クリックする前に止まる」「入力する前に相談する」といった行動を繰り返し確認し、実際の生活場面と結びつけて理解できるようにします。

(4)学習の成果と評価

生徒がフィッシング詐欺の基本的な仕組みを理解し、「本物そっくりの偽サイトがある」「メールでだまされることがある」といった危険性に気づけるようになることを目指します。また、あやしいと感じたときにすぐ行動せず、立ち止まって考えようとする姿勢や、自分だけで判断せずに相談しようとする態度を評価します。正しい知識を覚えているかだけでなく、「リンクをすぐに押さない」「個人情報を簡単に入力しない」といった安全な行動を意識しようとする様子や、インターネットの利用場面を自分の生活と結びつけて考えようとする姿勢も大切にします。

(5)参考 URL

① フィッシング詐欺とは？

出典元：総務省

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/cybersecurity/kokumin/basic/risk/04/

フィッシング詐欺の手口や対策について詳しく解説した記事です。メールや SNS で偽サイトに誘導する方法、URL の見分け方、正規サイトへのアクセス方法などを具体的に紹介しています。手口が巧妙化している現状とあわせて、基本的な確認ポイントを学ぶことができます。

② フィッシング対策

出典元：警察庁

https://www.npa.go.jp/bureau/cyber/countermeasures/phishing.html

フィッシング詐欺の仕組みや具体的な相談事例、被害に遭った場合の対応までを詳しく解説しています。メールや SMS による誘導手口、ID・パスワードの管理方法、ワンタイムパスワードの活用など、実践的な防止策が整理されています。

③ 子どもを狙ったネット詐欺に要注意 “中学生副業”に応募してみたところ……

出典元：アイティメディア株式会社

https://www.itmedia.co.jp/mobile/articles/2211/07/news082.html

ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺、SNS を通じた副業詐欺など、子どもを狙った最新のネット詐欺事例を紹介した記事です。年齢別の被害傾向や実際の手口、保護者が家庭でできる対策や相談先まで具体的に解説されています。

④ 子供に身に付けさせたい情報セキュリティ

出典元：ALSOK

https://www.digitalsales.alsok.co.jp/col_kids-sec-edu

子どもに必要な情報セキュリティの基礎を、保護者向けにわかりやすく解説した記事です。パスワード管理や個人情報の扱い方、怪しいリンクの見分け方、家庭でできる設定対策まで整理されています。

⑤ 自分自身を守るために！クイズで身につけようネットの防犯
出典元：朝日学研シンクエスト
https://kids.gakken.co.jp/kagaku/nandemo/security250331/?doing_wp_cron=1771423753.7468159198760986328125
子ども向けに、ネットの危険（個人情報の流出、怪しいメッセージ、フィッシング詐欺など）をクイズ形式で学べる記事です。具体例とたとえ話で、してはいけないことと困ったら大人に相談することを押さえた上で、合言葉で行動ルールを覚えやすいように工夫されています。

第 5 章　契約のトラブルと対処法

ー 契約の意味とトラブルへの対応を理解することを目指します ー

本章では、契約とは何かを理解し、商品やサービスを利用する際の基本的なルールについて学びます。契約が生活の中でどのように関わっているかを具体的に捉えます。

指導にあたっては、「契約の内容を確認すること」の重要性に気づかせることを重視します。価格や条件、内容を理解した上で判断する姿勢を育てます。

また、契約後にトラブルが起こった場合の対応についても扱い、相談することや適切に対処することの大切さを理解できるようにします。

本章は、消費者としての基礎的な力を育てる最終章として位置付けています。

本章の構成

第 1 節　契約の大切さ
第 2 節　契約後にトラブルが起こったら

指導用ガイド：お金とのつきあいかた
第 5 章　第 1 節「契約の大切さ」

(1)学習目標と単元の概要
本節では、「契約」とは何かを理解し、身近な生活の中にも契約があることに気づくことをねらいとしています。商品を買うときやサービスを利用するとき、アパートを借りるときなど、私たちの生活のさまざまな場面で契約が結ばれていることを学びます。また、契約はお金を払う約束や条件をはっきりさせ、トラブルを防ぐための大切な取り決めであることを理解し、正しい契約をするための基本的なポイントを身につけることを目指します。

(2)指導の要点と基本方針
指導にあたっては、まず「契約」という言葉を難しく捉えさせないことが大切です。特別な大人の世界の話ではなく、ゲーム機を買うことや学習塾に通うことも契約であると示し、身近な体験と結びつけながら理解を深めます。そのうえで、契約とは「お金やサービスについての約束をはっきりさせること」であり、安心して取引をするための大切な仕組みであることを丁寧に説明します。契約を軽い気持ちで結ぶのではなく、「内容を確認して納得してから決める」姿勢を育てることを基本方針とします。

(3)具体的な指導の展開
契約とは何か（5,1,1）スライド 79～81
①概要
契約とは、お金を払い商品などを受け取るときに、お互いの約束をはっきりさせる取り決めであることを理解させます。商品購入時には、価格や品質、返品の条件などについて契約が成立していることを伝えます。また、学習塾などのサービス利用、アパートを借りる場合にも契約が結ばれていることを紹介し、契約は日常生活の中に広く存在していることに気づかせます。



スライド 80　サービスを利用するときの契約についての説明

②指導を行う際の留意点
契約という言葉を抽象的に説明するのではなく、「ゲーム機を買う」「スマートフォンを契約する」「習い事に申し込む」「アパートを借りる」など、具体的な場面を示しながら理解を促します。それぞれの場面で、どのような約束が交わされているのかに目を向けさせます。たとえば、ゲーム機を買うときには価格や返品の条件、スマートフォンでは月々の支払い額や利用期間、習い事では月謝や通う期間、アパートでは家賃や契約期間などが決められています。このように、契約とはトラブルを防ぐためにお金や条件についての約束をはっきりさせることであると、生活と結びつけて具体的に理解させます。

正しい契約をするポイント（5,1,2）スライド 82～85
①概要
間違いのない契約をするためには、まず商品やサービスの内容をよく確認することが大切であることを学びます。本当に自分が求めているものかを考え、納得してから決める姿勢を育てます。また、値段や支払い方法、回数や期間などをしっかり確認することの重要性を理解させます。特に高額な契約の場合は、家族に相談し、大人と一緒に内容を確認することが安全な行動であることを伝えます。



スライド 84　契約をする前に大人に相談することの大切さの説明

②指導を行う際の留意点
「あとで違った」「思っていた内容とちがった」というトラブルが起こり得ることを、具体例で示します。たとえば「安いと思って申し込んだら、2回目から高くなった」など、身近な場面を挙げて、事前に確認する大切さを実感させます。特別支援学校の生徒には、「見る→考える→相談する」という流れで整理します。内容や金額などを確認し、すぐに決めずに一度立ち止まって考え、迷ったら大人に相談することを繰り返し確認します。また、分からないときに質問することは自分を守る大切な行動であると伝えます。

(4)学習の成果と評価

生徒が契約とは何かを理解できるようになることを目指します。そのうえで、商品やサービスを利用する契約をする前に、内容・金額・支払い方法を確認して考え、必要に応じて大人に相談するという基本的な行動を意識できているかを評価します。あわせて、「すぐに申し込まない」「分からないまま進めない」といった慎重な態度や、自分を守るために立ち止まって考えたり分からないことを尋ねたりする姿勢も重要な評価の観点とします。

(5)参考 URL

① 大人への道しるべ

出典元：法務省民事局

https://www.moj.go.jp/seinen/chapter_02/

もうすぐ成人を迎える青少年向けに、漫画とクイズと解説で契約について学ぶことができます。成人するにあたり知っておきたい契約に関するポイントがわかりやすく端的にまとめられています。

② 契約とは？契約の基礎知識と重要ポイントを解説

出典元：クラウドサイン

https://www.cloudsign.jp/media/what-is-a-contract/?utm_source=chatgpt.com

契約とはお互いの意思表示が合致する約束であり、トラブルを防ぐ役割があることを分かりやすく説明しています。契約の種類や契約が成立する条件、重要性も学べます。

③ ぐんま版消費者教育教材（特別支援学校高等部向け）2－1契約とは

出典元：群馬県生活こども部消費生活課

https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/651762.pdf

特別支援学校高等部向けに作成された、契約について解説する教材です。契約は生活の中で身近に存在することや、契約をすることの意味をクイズやイラストを用いて易しく説明しています。

④「契約」ってなあに？

出典元：消費者庁

https://www.digitalsales.alsok.co.jp/col_kids-sec-edu

子ども向けに契約について説明したパンフレット型の教材を公開しています。契約のしくみやトラブルにあわないために大切なことがまとめられています。

⑤ 探偵パオとチュー太の事件簿 かいけつ！消費者トラブル

出典元：鹿児島市消費生活センター

https://www.keinet.com/syouhi/index.html

子ども向けに、動画やクイズで消費者トラブルや契約について学べる教材です。探偵の事件簿形式で楽しく理解でき、参考リンクも充実しています。

第５章 第２節「契約後にトラブルが起こったら」

(1)学習目標と単元の概要

本節では、契約をしたあとにもトラブルが起こることがあると理解し、そのときにどのように行動すればよいかを学ぶことをねらいとします。お金を払って契約をしても、条件が守られなかったり、思っていなかった問題が起きたりすることがあります。どのようなトラブルがあるのかを知り、困ったときにあわてず相談できる態度を育てます。

(2)指導の要点と基本方針

契約は成立したら終わりではなく、その後も約束が守られているかが大切であることを伝えます。商品が違う、壊れている、サービスが約束どおり提供されない、お金が返ってこないなど、具体的な例を示しながら説明します。指導では、不安をあおるのではなく、「起こることもある」という現実として落ち着いて扱います。そのうえで、困ったときは一人で判断せず、まず家族や先生に相談することが自分を守る行動であると位置づけます。

(3)具体的な指導の展開

契約後のトラブル（5.2.1） スライド 89～92

①概要

契約後に起こりうる代表的なトラブルについて理解させます。例えば、思っていた商品と違うものが届いたり、壊れていたりする場合があります。また、サービスが約束どおりに提供されなかったり、期日を過ぎても商品が届かなかったりすることもあります。さらに、返金を約束されたのにお金が返ってこないといった問題もあります。これらは契約の内容が守られていない状態であり、確認や対応が必要になることを理解させます。



スライド 90 違う商品や壊れている商品を受け取ったときの説明

②指導を行う際の留意点

トラブルの説明では、「どんなことが起こり得るのか」を具体的にイメージできるようにすることが大切です。商品が違う、壊れている、サービスが約束どおりに提供されない、お金が返ってこないといった例を一つずつ示し、それぞれがどのような問題なのかを整理して理解させます。生徒が「これは困る」「これは約束と違う」と判断できるように、困り感や契約との関係に着目させながら学習を進めます。

トラブルが起きたときにすること（5.2.2） スライド 93～96

①概要

契約後にトラブルが起きた場合の基本的な対応の流れを理解させます。まずは一人で抱え込まず、必ず家族に相談することが大切であると確認します。そのうえで、契約相手に問題の内容を伝え、話し合いを行うという手順があることを学びます。お店での買い物であれば店舗に伝えること、インターネットでの買い物であれば問い合わせ先に連絡することなど、状況に応じた行動を整理します。また、話し合いで解決しない場合には、法律の専門家に相談する方法があることも伝えます。



スライド 93 トラブルが起きたときに一人で悩まず相談することの大切さの説明

②指導を行う際の留意点

指導では、「困ったらすぐ相談する」という行動を最優先の原則として位置づけます。トラブルが起きると不安や焦りが生まれやすいため、落ち着いて順番に行動することの大切さを伝えます。問題を相手に伝える際には、何が起きたのか、どうしてほしいのかを整理して話す必要があることにも触れます。特別支援学校の生徒に対しては、「相談する→家族と一緒に連絡する→必要に応じて専門家に相談する」という流れを繰り返し確認し、一人で抱え込まない姿勢を育てます。

(4)学習の成果と評価

生徒が契約後にもトラブルが起こる可能性があることを理解し、「商品が違う」「約束が守られない」「返金されない」といった具体例を挙げられるようになることを目指します。また、トラブルが起きたときに「一人で抱え込まない」「家族に相談する」「契約相手に伝える」「法律の専門家に相談する」といった行動の流れを理解しているかを評価します。知識として覚えているかだけでなく、不安を感じたときに相談しようとする姿勢や、落ち着いて対応しようとする態度も大切な評価の観点とします。

(5)参考 URL

① 「社会への扉」生徒用教材の内容

出典元：消費者庁

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/teaching material/material 010/student.html

高校生向けの消費者教育教材です。身近な生活にある契約や消費者トラブルを取り上げ、予防のポイントやトラブル時の対応をイラスト付きでわかりやすく紹介しています。

② 「契約」をテーマとした教材

出典元：消費者教育支援センター

http://www.consumer-education.jp/homestudy/gigakei.html

消費者教育支援センターが開催している「消費者教育教材資料表彰」において優秀賞を受賞した教材の中から、オンラインでの学習に向いた「契約」がテーマの教材を紹介しています。

③ 何のために買うのかな？

出典元：金融広報中央委員会

https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/okanenone/shogaku12/kurasi101/otona.html

買い物が契約であることをわかりやすく示し、トラブルを防ぐために購入前に確認すべきポイントを端的に説明しています。さらに、購入した商品が不良品だった場合の具体的な対応方法についても紹介されています。

④ 金融トラブルとその備え〈児童／生徒／学生編〉

出典元：野村證券

https://www.nomura.co.jp/fin-wing/column/youth-financial-troubles/

若年層に起こりやすい金融トラブルの事例を年代別に紹介し、どのような問題が起きるのかを具体的に解説した記事です。契約や支払い後にトラブルが生じるケースにも触れ、困ったときは一人で抱え込まず、保護者や専門機関に相談する大切さを伝えています。